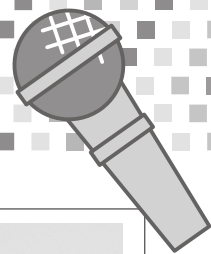


新規採用教員へのインタビュー



舟木 麻里菜 ふなき まりな

県立誕生寺支援学校 教諭
(令和5年度採用)

自己紹介

Q 初任校の県立誕生寺支援学校について教えてください。

県立誕生寺支援学校には、知的障害部門（小・中・高）と肢体不自由部門（小・中・高・訪）があります。また、遠距離もしくは教育上入舎を必要とする子どもたちが利用する、寄宿舎があります。誕生寺校地と弓削校地の2つの校地があり、私は誕生寺校地で勤務しています。

まだ本校の勤務経験しかないのですが、他の学校との比較はできませんが、勤務環境がとても良いと感じています。周りの先生方が私の様子を気にしてくださっていることが伝わってきます。採用2年目になりますが、採用されたばかりの時と比べて、

岡山県出身。
大学で、小学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状（知・肢・病）を取得しました。
採用2年目で、初年度から肢体不自由部門の高等部の担任をしています。

たくさん先生と交流ができるようになり、一層、働きやすくなりました。校内での研修時に、職員同士が話す機会をつくってくださっているのので、「こういう時はこの先生に聞いてみよう」ということも分かるようになりました。自分からも積極的に、違う学部や部門の先生にも話しかけるようにしています。

Q 教員を目指した理由について教えてください。

2つ上にダウン症の兄がいることもあり、障害のある人たちとの関わりが身近にありました。兄は、小学校は特別支援学級、中学・高校は特別支援学校で学びました。卒業後は就労支援の事業所に就職しています。事業所で働き始めた兄の姿を見る中で、学校教育は、これから社会に出て生きていく生活の基盤をつくる、すごく大事なものだと感じました。障害のある子どもたちの自立や社会参加を支えたいと思います、高校生の時に特別支

援学校の教諭を目指すこと決めました。大学は、教育学部（初等教育学科）に進学しました。



総合的な探究の時間で調べ学習をしている様子

Q 教員採用試験の対策について教えてください。

私は、大学在学中に教員採用試験を受験し、採用されました。大学では、学校現場に「チーム学校」という言葉があるように、チームで協働することが大切であるという教えがあり、「チーム初等」という言葉のもと、様々な授業でグループ協議を行いました。協働することの大切さを学びました。私は元々自分の考えを他者に伝えることは得意ではありませんでしたが、大学の授業内のグループ協議等を経て少

ずつ自分の意見を他者に伝えることができるようになってきました。岡山県教育委員会が実施する「教師への道」研修にも参加したので、他大学の学生と意見交換する機会が増え、その時にも鍛えられたと思います。

試験対策は、同じ自治体、職種を受験する大学のメンバーで（試験内容が同じメンバーでも）集まり試験勉強をしました。「チーム初等」という言葉のもと、「みんなで一緒にがんばっていきましょう」とお互いに意見交換をするなど支え合いながら試験勉強に励むことができました。大学時代の友人の多くは教員として働いているので、今も力になってくれています。

Q 肢体不自由部門での勤務を希望されていたのですか。

知・肢・病の免許状を取得予定だったので、どの障害種でも頑張りたいと考えていました。とはいえ、教育実習は、介護等体験はコロナ禍でできなかったのですが、肢体不自由の子ともたちとの関わりの経験が少なく、肢体不自由部門に配置と聞いたときは驚きました。最初は、「どんなふうに関わったら良いのだ

ろう」と悩んで、周りの先生方の関わり方を見ながら取り組みました。

特別支援学校は複数の教員が担当するので、教員同士で意見を出し合い、方向性を決めながら支援をします。話し合いの中で、新しい発見もありますし、自分の考えをひろげることができます。もちろん、意見がいつも一致するわけではありません。自分とは違う考え方を知ることができるとも、とても勉強になります。お互いの考えを受け止めつつ、お互いの意見の着地点を決めて、「こうしてみよう」と取り組むことを大切にしています。

Q 働く上で大切にしていることを教えてください。

授業での子どものたちの反応を大切にしています。「分かった!」という表情を見ることができた時はとても嬉しいです。

また、授業や日常生活の中で子どもたちの様子から実態を把握するように努めています。自分一人では悩むこともあるので、先生方とも情報共有をして、実態を把握し、子どもたちの理解に努めています。

なにより、子どもたちには、学校で人との関わり方を学んで欲しいと考えています。困ったときにそのことを周囲の人に伝えられることは、社会で生きていく中で必要な力だと考えています。少しの上手くいかない失敗経験を積みながら、次はどうしていくか、子どもたちと考えるようにしています。そして、手助けしてもらうことに対しての感謝の気持ちを伝えることができる人であってほしいと思います。



理科で夏野菜の栽培、水やりをしている様子

Q 勤務する中で苦労したことはありますか。

子どもたちと関わるのが好きなので、大変なこともあります。ですが、教員の仕事にとってもやりがいを感じています。その分、「子どもたちの実態を把握し、理解しながら支援ができて

いるのか、自分が子どもたちとの関わりに対して何ができ、何を大事にしたらいのか」悩み、落ち込むことはわりと多いです。教員の仕事は、子どもたちと関わる仕事だけでなく、事務仕事もあります。その両立に追われて、「上手く子どもと関わる事ができていない」と感じることもあります。深いところまで悩んでしまう前に、周りの先生方や同期の教員に相談をするようにしています。

Q 勤務する中で工夫していることはありますか。

働きはじめて、子どもたちと関わる時間を大切にするためには、「自分の働き方、仕事の仕方を見直さないといけない」と感じています。

今年度から、肢体不自由部門の代表として衛生委員会に出席することになり、働き方について会議で話し合う機会が増えました。

先生方がどこを意識して仕事をしているのかを学ぼうと、校内の先生方にGoogleフォームでアンケートを行いました。肢体不自由部門の先生方は、メリ

ハリを付けて仕事をされています。現在、自分なりの工夫として、やることリストを作って優先順位をつけることを実践しています。が、今後は、先生方の回答を参考に、より働き方の見直しに取り組んでいきたいと思っています。

Q 最後に、教員を目指す方々へメッセージをお願いします。

勤務時間終了後は先生方とバトミントンをしたりして、リフレッシュをしながら2年目を迎えることができました。教員の仕事はともやうがいがあります。子どもと関わる仕事に関心がありましたら、ぜひ教員を目指してほしいと思います。



音楽で生徒がマイクを使って歌をうたっている様子